

鶴川図書館の再編に関する説明会
ご質問・ご意見の概要
2023年2月8日実施分

日 時：2023年2月8日（水）19:00～21:00

場 所：鶴川市民センターホール

参加者：34名

No	ご質問・ご意見	図書館の回答
1	図書館自体が文化財などを保持していく施設であり、知る権利のために重要な施設であることを認識しているか。この説明会は、市民に納得してもらうための説明会で良いか。市の考えを押し付けるというものではないということで良いか。図書館の存続を望む人がいるということは認識しているか。	認識はしている。全員の理解を得ることは難しいと思うが、ご協力が得られるよう説明の場を設けている。
2	地域の大事な図書館を廃館にしなければならない理由が説明されていない。図書館は、公平な知識を得るために必要で、民主主義の根幹だと考えている。絶対に廃館しなければならないという理由はあるのか。廃館の結論に至る経過が説明されていない。廃館の必然性や経緯が分からないと納得できない。	財政状況や人口減少などの状況の中で再編をする必要があり、図書館としても公共施設の再編を検討してきた。近接する施設の有無や老朽化といった基準により鶴川図書館が再編の対象になった。図書館が文化的な価値という面からも重要な施設であることは理解している。そのため、再編という総論がある中で、3年近くの時間をかけて意見交換などをしながらどうしたら良いかを考えてきた。
3	どういう選択肢を検討したのか。存続のためにどうできるかは考えたのか。	市の施設全体の中で再編の方針に基づいて検討し、近接する図書館がある、さるびあ図書館と鶴川図書館が対象となったという経緯だ。
4	鶴川図書館を無くさないでほしいと思っており、その願いを伝えたくて来た。図書館の貸出冊数のグラフについて、貸出冊数の数が少ないという説明があったが、他の図書館と比較することには意味がないと思う。鶴川図書館は古くて小さく、閲覧室もない。これまで太陽の広場で開催されてき	飲食や物販を積極的に行うイメージではなく、精肉店やパン屋さん、パティスリーなどとも連携していけると良いと考えている。商店会とも話したことがあるが、例えば本を借りた時のレシートをお店に持っていくと割引になるというような連携もできると良いのではないかな。また、現在は、館内で飲食をすることはで

	た図書館の存続を願うイベントにも参加してきた。市民に書いてもらったアンケートを見ると、同じように無くさないで欲しいと願っている人がたくさんいることが分かって嬉しかった。今日は、そういった声を持ってきたのでご紹介したい。「鶴川図書館はみんなの居場所で支えになっている」「子どもたちがほっとできる居場所」「生活に不可欠」「身近に立ち寄れる場所なので無くさないでほしい」など。「小さな図書館を残してほしい」という意見は、そこまで大それた願いではないのではないか。そもそも、町田市は、多摩エリアでも他市に比べて図書館にかける予算が少ないと聞いている。さらに削るといえるのはどういうことか。 また、これからの方向性のところで、物販や飲食について書かれているが、物販などは商店街にあるのだから必要ないのではないか。 運営費補助についても、どの程度の規模なのか分からない。運営団体もどういうところが入るのか分からないし、手を挙げる団体がいなかったらどうするのか。	きないが、そうした点も変えていける。商店街の店舗で購入したものを新しい施設では食べたり飲んだりすることも可能になる。 運営費の補助に関しては、民設民営になっても何人かいないと回すことができない。そうした人件費を見込んでいるが、具体的な金額はご容赦願いたい。 運営団体に関しては、これまで 3 年間かけて、地域と意見交換をしてきた。自治会や学校のボランティア、コーディネーターの方などと話をしてきた中で、地域の活性化という趣旨に賛同してくださっている方が 5 名ほどいる状況。運営団体設立準備会には、読書普及活動や子ども支援、福祉関係の方など様々な団体の方に関わっていただきたいと考えている。そうすることで、市の職員ではできないこと、ご説明したような価値が生まれていくと考えている。
5	今回の説明会は、再編の説明会ではなく、廃館の説明会だと感じた。再編といわれると、「図書館が残る」と受け止める方がいると思うので、再編ではなく廃館を前に出すべきだと思う。ネガティブな面もしっかりと伝えていくことが大事。今後その点について気をつけていただきたい。 減少率のグラフはいつといつの比較なのか。鶴川図書館よりも、むしろ中央図書館の方が減り幅は大きいように見える。このグラフからは、減少率の大きさまでは読み取れない。 また、鶴川駅前図書館が開館したことで利用者が減ったというが、駅前図書館を建設したのは町田市。駅前図書館を建設する際の説明会にも参加したが、その時には「鶴	駅前図書館ができる前とそれ以降で比較したグラフを提示している。駅前図書館の利用が落ち着いてきた 2016 年度～2019 年度でも、鶴川図書館は市内 8 館の中で一番減少幅が大きい。減少率もグラフでは分かりづらいかもしれないが、数字を出すと鶴川図書館が確実に大きい。 補助金の要綱はまだできていない。今後の検討課題。

	川図書館は残す」という説明があったはずだ。 補助金についても具体的な金額が知りたい。それほど期待できないようにも思うが、あまりに少ないようだと言パクトはないのではないか。補助金の要綱などはまだできていないのか。	
6	図書館の貸出冊数・来館者数のグラフで鶴川図書館が減っているのは、造られたデータなのではないか。よく図書館に行っているが、実数カウントはしていないはずだ。図書館をなくすことは文化をなくすことだ。山梨県の北杜市は 7 町村が合併してできた市だが、以前の町村それぞれに図書館が残っており、わずか数万の人口の市に 7 つも図書館がある。金田一春彦さんのゆかりの地ということもあり、「金田一春彦記念図書館」とするなどして、文化度を上げている。鶴川にも白洲さんがいた。白洲正子図書館とするなど、文化的なことを考える必要もあるのではないか。	図書館の入口に人数をカウントする機械がある。入口を通る度にカウントしている。新型コロナウイルスが落ち着いて、他の図書館が持ち直した一方で、鶴川と金森だけは減っている。鶴川は最新のデータでも減っている状況だが、原因は不明。
7	廃館になるということを理解したが、個人的にはやめてほしい。今の運営にはいくらかかっているのか。 補助金としてはいくらを考えているのか。 蔵書は買わないで寄付本だけになるのか。	現状では、鶴川図書館だけで人件費を含んで 6 千万円程度かかっている。市の図書館全体としては 12 億円程度だが、本の購入費はこの数字に含まれていない。 民設民営後は、市の図書館としては図書を購入しないが、補助金の中には図書購入費を含めたいと考えている。結果的に、現在市が出している図書購入費より多くなることを想定している。
8	鶴川図書館の利用が落ちているという説明があったが、図書館は書架が生き生きしていないとダメだ。町田市の図書購入費は東京都の中で最下位。町田市の市民 1 人あたりの図書購入費は 80 円であり、多摩地域で比較しても 3 分の 1 程度である。町田市は図書館にお金をかけていないというのは事実ということで良いか。 また、図書館の規模としてはこれまでよ	令和 4 年度の東京都から出ている「公立図書館調査」では、町田市は、図書購入費が総額 3,400 万円程度で多摩地域では 12 位。市民 1 人あたりでは 80 円程度で 26 市の中で 25 番目である。一方で、貸出数は 26 市の中でトップであり、限られた中で選ばれる図書を購入できるよう努力している。 また、資料のスケジュールの施設位置の欄に「現在地」と記載されている 2027 年度までは、

	り大きくなるのか、変わらないのか、小さくなるのか。小さな子どもが本に出会うためには、司書が選んだ良い本がたくさんあることが大事。子育て世帯に来てもらいたいなら図書館は大事だ。経済活性化を進めてもコロナなどがあればダメになる。将来のために鶴川図書館を存続させてほしい。 地域図書館には最低限 3 万冊の蔵書があって、毎年 7 千冊は入れ替えていく必要があるといわれているが、居場所のスペースなどを作るとすると、書庫スペースはほとんどなくなるのではないかと。一定程度、図書のボリュームがないと図書の提供機能は機能しなくなる。率直に廃館と言った方が良いのではないかと。	今の鶴川図書館の場所であり、面積は変わらない。施設の中に本棚を詰めている状況からコミュニティスペースを作っていくようになる。 2033 年度以降については、UR 都市機構とも話を重ねているが、10 年先の話なので具体的な姿はきいていない。再編を進めている状況の中で、今よりも面積を大きくすることは難しいと思う。だが、UR としても子育て世帯を呼び込みたいと考えているのではないかと。本を置いておくスペースは UR から借りつつ、オープンスペースを相互利用していくような形がとれないかと相談している。
9	財政状況などを踏まえて再編が必要だということは、この場にいる皆さんも納得はできるだろう。その対象がなぜ図書館なのかということが納得できない。少子高齢化が進む中で、歩いて行ける範囲に図書館があることは大事なのではないかと。 図書館の貸出冊数・来館者数のグラフを見ると、利用者数は減っているが貸出冊数は増えており、このエリアの人たちは必要性を感じているのではないかと。 素人が本を並べることはできない。市民が求めている図書館のノウハウを伝えてくれるような具体的な計画はあるのか。NPO と市民で運営している施設には、上手くいっていない事例も多い。	鶴川図書館と駅前図書館では利用形態が異なっている。鶴川図書館はスペースが少ないため滞在時間が少なく、予約本の貸出数が多い。子ども連れで一度に数十冊と借りていく方も多い。一方で、駅前図書館は滞在型、来館型である。過ごすタイプの図書館で、借りない人も多い。大和市にシリウスという図書館があるが、ここも年間数百万人の来館があるが貸出数は少ない。そういった利用方法の違いが数字に表れていると考えている。 補助金を出す形態になっても運営団体に任せっきりになるわけではない。例えば、どういった図書を購入するか、読書相談にどうやって対応したら良いかということも一緒に考えていきたい。中央図書館の 5 階も委託、駅前図書館も指定管理者制度を入れているが、いずれも毎月会議を開催し、意見交換をしている。新たな施設については、丁寧な対応が必要だと認識している。 町田市の図書館は、利用者ファーストで独自のルールが多すぎるともいわれている。予約本に特化させて、図書機能業務をスリム化することで、新たな図書コミュニティ施設の運営に地域の方々が関わっていくことも可能であると考

		えている。
10	今日から 2/12 までの間に、集まる機会が必要なのではないかと思う。皆さんは中央から来ているから、地域のことを分かっていないのではないか。資料に体制図があるが、今はこういうネットワークがなく、これからつくっていくことになる。こうしたネットワークを通じてプロセスを踏んでいけることを期待したい。この場に来ている方は、思いを持っている方たちなのではないか。ぜひ話を重ねていきたい。 図書館の廃止は民主主義に関わることなのに、お金などが理由だと納得できない。 今日の説明会で市が録画はダメだと言ったのも、後ろ向きな態度ではないか。一緒に作っていこうという姿勢が市にはあるのか。 2016 年 3 月の「48 のアクションプラン」(町田市鶴川団地と周辺地区再生方針)でも、冒険あそび場以外の 47 は実現できていない。もっとコミュニティ機能が必要だ。浪江度を地域で受け継ぐことも必要である。	再編に関する説明会でこれだけ多くの方が集まってくださったのはすごいことだと思う。また、いろいろなご意見をいただいたが、ご批判も全てエールだと受け止めている。再編という非常に難しい問題に対して知恵を絞ったものを今回お示しした。具体的な内容については、本日集まっている方たちにも火を灯していただきたい。もちろん市も引き続き関わっていく。
11	物販や飲食をできるようにすると書いてあるが、物販などがプラスされても変わらないと思う。図書館の来館者数や貸出数のグラフもよくわからない。鶴川図書館が減少しているという議論になっているが、見方を変えると、鶴川図書館と駅前図書館ではスペースがあればほど違うにも関わらず、鶴川図書館の貸出数は 1/3 であるのだから、むしろ鶴川図書館よりも駅前図書館をどうにかすることを考えるべきではないかと思った。	
12	図書館の廃止がありきの説明会ではないか。これまでは廃止とは出さずにワークショップをしていた。参加者は、再編＝残ると思っていろいろなアイデアを出してきた。廃止することが目的になっている。「お	

	金がない中でどういう手がとれるか」というふうにはできなかったのか。以前、非常勤の司書がいる八王子の図書館も見に行き、節約の知恵も学んできた。ここから２年間は公立図書館として残るため、大事に利用していきたい。だが、廃止ありきではなく、どうやったら残せるかという議論をしたら良いアイデアが出るのではないか。	
1 3	鶴川団地は 50 年前に町田市が誘致した唯一の団地であり、その時にできたのが鶴川図書館だが、鶴川図書館を利用できるのは、鶴川 1～6 丁目、大蔵、広袴くらいの範囲の住民だけだ。鶴川駅前図書館を利用できるのも、能ヶ谷、三輪、鶴川 1、2 丁目の住民くらいで、あとの人たちは歩ける場所に図書館がない状況にある。 10 万人の規模の地域には図書館は 2 つあって良いと考えている。小中学校の統廃合も進んでおり、都市計画も含めて考える必要がある。他の公共施設の再編の動きも踏まえて、鶴川図書館の再編の動きを考えなくてはならない。私自身は、廃校になる大蔵小学校の 1 フロアを鶴川地区の図書館にしたら良いのではないかと考えている。残りのスペースは市民会館として、教室や体育館を市民が使えるようにしたり、書庫や閲覧室に使ったりするのも良いのではないか。UR に賃料を払うのではなく、廃校を活用して、その分蔵書のお金に回したらどうか。 鶴川地区協議会としても運営には関わっていきたいと思っている。一方で、鶴川図書館を大蔵小学校に移していくといった運動も町田市に対して働きかけていきたい。	
1 4	本を借りるということは、内心に関わることが多分にある。図書館のアルバイトが、友達が本を借りに来た時に「あなたこんな本を借りているの？」という会話をしたため、不快に思ったという話も聞いたことが	

	ある。知り合いから本を借りたくない人もいる。カウンターの人の役割は大事である。	
--	---	--